

2012年1月5日  
住友生命保険相互会社

**審査会には特別審査員として、相葉雅紀さん、北川景子さんが参加！**

## **第35回 こども絵画コンクール 「ボクの、ワタシの、未来賞」 受賞作品決定**

住友生命保険相互会社(社長 佐藤義雄)が主催する、第35回こども絵画コンクールの「ボクの、ワタシの、未来賞」は、東日本大震災で特に被害の大きかった地域のこどもたちに明るい未来を考えるきっかけになることを願い、今年で35年目となる「こども絵画コンクール」にて新たに設けられた賞です。このたび通常の審査員に加え、特別審査員として、住友生命イメージキャラクターの相葉雅紀さん、北川景子さんも参加し、被災地域7県のこどもたちが描いた候補作品のなかから受賞作品6作品を決定いたしました。

「ボクの、ワタシの、未来賞」を受賞した6作品を含め、計108点の全国審査入賞作品が、2012年3月9日(金)～4月9日(月)の期間、フランスのルーヴル美術館にて展示されます。そして今回、それに先駆けて、受賞作品を国内でもご鑑賞いただける「全国展覧会」を、2012年1月7日(土)～1月9日(月・祝)の間、東京タワー特設会場にて開催いたします。

### ※ 『こども絵画コンクール』

1977年より、こどもたちの心豊かな成長をお手伝いしたいという思いから生まれた住友生命主催のコンクールです。0才から小学校6年生(中学生はCG部門のみ)までの児童を対象にした当コンクールは、特別賞、金賞、銀賞、そして今回新設された「ボクの、ワタシの、未来賞」に選ばれた代表作品を、フランス国立ルーヴル美術館に期間限定で展示します。過去34年間の応募総数は977万点を越え、ルーヴル美術館での展示も12年目を迎えます。第35回目のテーマは、「ドキドキ！わくわく！」。

## ■住友生命「こども絵画コンクール」概要

こどもたちの心ゆたかな成長をお手伝いしたいという思いから生まれた、1977年から毎年開催している住友生命主催のコンクールです。第24回(2000年)コンクールからはルーヴル美術館の後援を受け、国内をはじめ、アメリカ、イギリス、フランス等海外からも応募いただくグローバルなコンクールへと成長し、全国審査の特別賞・金賞・銀賞受賞作品をルーヴル美術館に展示してきました(今回で12回目)。各機関後援のもと、幼児児童の美術教育へより一層の貢献ができるよう取り組んでおります。また、配付した画用紙1枚につき1円、応募作品1点につき10円を公益財団法人日本ユニセフ協会に寄付し、世界のこどもたちを支援しております。今年度の寄付金は、世界のこどもたちへの支援になるほか、一部が東日本大震災の復興支援にも役立てられます。

### ■「こども絵画コンクール」のこれまで

1977年 第1回 こども絵画コンクール 開催  
1986年 ユニセフへの寄付を開始  
2000年 特別賞、金賞、銀賞作品のルーヴル美術館(フランス)での展示を開始。  
2011年 「ボクの、ワタシの、未来賞」新設

◆応募総数:9,773,077点(2010年度まで)

### ◆展覧会について

#### <全国展覧会>

日時 :2012年1月7日(土)~9日(月・祝)

展示時間 :10:00~18:00

会場 :東京タワー フットタウン1階 特設会場

#### <ルーヴル美術館展覧会> (※2010年度までの展示数 853点)

第24回から、ルーヴル美術館の後援を受け、グローバルなコンクールへと成長。海外からの応募の他、全国審査を通過した特別賞・金賞・銀賞 受賞作品約100点をルーヴル美術館に展示しています(今回で12回目)。第35回は、特別賞、金賞、銀賞の102作品に加え、「ボクの、ワタシの、未来賞」6作品の計108作品を展示します。

・展示日 : 2012年3月9日(金)~4月9日(月)

・展示時間 : 9:00~18:00 ※水曜日・金曜日は9:00~21:45 ※火曜日休館

### 「ボクの、ワタシの、未来賞」概要

◆賞名 「ボクの、ワタシの、未来賞」

#### ◆資格

青森県、岩手県、宮城県、福島県、茨城県、栃木県、千葉県に在住の幼児・小学生・中学生(中学生はCG部門のみ)  
※2011年3月11日時点で上記7県に居住していて、現在は避難のため他県に転居された方も対象になります。

#### ◆入賞作品数

各部門1名 合計6名

- 幼児0才~4才部門
- 幼児5才~6才部門(未就学児童)
- 小学校1・2年生部門
- 小学校3・4年生部門
- 小学校5・6年生部門
- CG(コンピュータグラフィックス)部門

※CG部門は幼児・小学生・中学生が対象です。

#### ◆審査基準

第35回のテーマ「ドキドキ! わくわく!」で描いた応募作品の中から、「希望ある力強い未来」を強く感じる作品を選出。

#### ◆審査員

全国造形教育連盟:永関和雄委員長、日本教育美術連盟:藤丸一郎事務局長、九州大学:源田悦夫教授、  
日本ユニセフ協会:米山和道部長、ルーヴル美術館:ロランス・ブロッツ氏、フランス大使館:エレーヌ・ケルマシュター氏

#### ◆特別審査員

千葉雅紀さん、北川景子さん、佐藤義雄(当社取締役社長)

## ■「ボクの、ワタシの、未来賞」受賞作品

### ●幼児0才～4才部門

**齋藤利史**(さいとう としふみ)くん(4歳/宮城県)

#### 【受賞コメント】

大好きな新幹線の絵を描きました。この新幹線は、お兄ちゃんに乗ってほしいと思って描きました。お兄ちゃんに最初に絵を見せたときに、「かっこいい」と褒められたのでうれしかったです。大きくなったら新幹線の運転手になりたいです。



タイトル: 大好きな新幹線

### ●幼児5才～6才部門(未就学児童)

**添田羽琉**(そえだ はる)くん(6歳/福島県)

#### 【受賞コメント】

いつもおじいちゃんと一緒に虫を捕りに行きます。そのときに見た虫を思い出しながら絵を描きました。カラフルな「虹色クワガタ」は、こういう色だったら綺麗でいいな、と思って描きました。ボクの絵がルーヴル美術館に飾られたら、「虹色クワガタ」に注目をして欲しいです。



タイトル: くわがたがいた

### ●小学校1・2年生部門

**堀江一葉**(ほりえ かずは)くん(小2/茨城県)

#### 【受賞コメント】

ボクが将来大人になって設計してみたいクルマを描きました。大人になったら、クルマのデザイナーになりたいので、自分の将来の夢につながると思ってこの絵を描きました。絵とクルマが大好きで、描かない日がないくらい毎日クルマの絵を描いています。



タイトル: ぼくの車でドライブ！！

## ■「ボクの、ワタシの、未来賞」受賞作品

### ●小学校 3・4 年生部門

鎌田蓮(かまだ れん)くん(小 3/岩手県)

#### 【受賞コメント】

家族でキャンプに行ったときに、よく虫捕りをします。カブトムシやクワガタムシはあまり捕まえたことがないので、絵に描いてみました。どっちが勝つか？という、わくわくやドキドキを表現しました。頑張っただけで、受賞できてとても嬉しいです。絵を見た人たちに、「かっこいい」と思ってもらいたいです。将来の夢は、野球選手です。



タイトル:どっちが勝つか？

### ●小学校 5・6 年生部門

岩井仁耶(いわい にや)さん(小 5/岩手県)

#### 【受賞コメント】

被災した7県のなかで、受賞作品のひとつに選んでもらえたのはうれしいです。描いた絵がルーヴル美術館に飾られたら、岩手県に住むワタシが描いたということをいろんな人に見てもらいたいですし、外国の方に被災地域のことを深く知ってもらうきっかけになってくれたらうれしいです。将来は建築家になって、バリアフリーの家をたくさん建てたいです。



タイトル:川の中のドキドキ

### ●CG(コンピュータグラフィックス)部門

上田麟(うえだ りん)くん(小 4/岩手県)

#### 【受賞コメント】

ボクの大好きなドラゴンがエネルギーをためて、街の電気を発電している様子です。被災地で、停電で苦しんだ人がたくさんいたので、その人たちを元気づけようと思って描きました。もし被災地の人たちが見てくれたら、この絵で元気を出して欲しいです。将来は、人の役に立つ発明をしてみたいので、化学者になりたいです。



タイトル: カミナリを集めよう!  
街を救うドラゴンエネルギー

## ■「ボクの、ワタシの、未来賞」特別審査会の様子

---

「ボクの、ワタシの、未来賞」審査会には、住友生命保険相互会社 取締役社長 佐藤義雄に加え、住友生命のイメージキャラクターを務める相葉雅紀さん、北川景子さんが参加し、東日本大震災の被災地 7 県より応募された候補作品より 6 部門各 1 点の受賞作品を選定いたしました。

審査会場である住友生命本社の会議室に訪れた相葉さんと北川さん。絵を審査するのは初めてだというお二人でしたが、会場の扉を開けるや否や、ずらっと並べられた 30 点もの最終候補作品を目の当たりにし、「ドキドキしますね。選ぶのが大変そうだなあ(相葉さん)」、「画用紙いっぱいに使ってくれていますね(北川さん)」と、受賞作品を選ぶ責任を感じながらも、こどもたちが描いた力強い作品にすぐに魅了されたご様子でした。

6 部門ある内、年少部門から順に審査が始まると、お二人とも悩みながら一つ一つ作品をじっくりと鑑賞し、熱心にメモをとっていきます。北川さんは、自分たちが選んだ作品が世界的にも有名なルーヴル美術館に展示されるとあって、「これは決められないなあ。どれか一つを選ぶのはもったいないですね」と真剣な表情。思わず無言の時間が増えます。相葉さんは「未来に希望がもてるようなテーマやメッセージが伝わってきますよね。こういうことを考えているこどもたちが、これからどんどん大きくなっていけば、きっと世界は変わるんじゃないかな」と、こどもたちが描いた絵に終始、感嘆の声を漏らしていました。

相葉さんは、自席に戻って採点シートに記入する際も、「責任感じますよね。ちょっともう一回観て来てもいいですか?」と、ギリギリまで悩みます。また、カブトムシやクワガタが描かれた絵には「僕が小学校 3,4 年生のときに感じていたドキドキ! わくわく! を思い出しますね。僕もこどものころ採っていました。懐かしいなあ。」と、自身の経験と重ね合わせて眺めていました。

小学生高学年部門の審査に至ると、北川さんは「学年が上がるとやっぱり絵も変わってきますね。それぞれの部門でジャンルの違ったレベルの高さがあるので困ります」と、一つ一つの絵に顔を近づけて、細かい部分までじっくりと観察。緊張感のある張り詰めた空気の中、どこか審査を楽しんでいる様子が印象的でした。

部門ごとに審査を進め、最後の CG 部門を終え終了。その後、相葉さん、北川さん、そして佐藤社長 3 名の想いを集計し 6 部門全ての受賞作品が決定しました。今回の審査を通して、「絵ってエンタテインメントですよ。見ているだけで楽しくなるし、笑顔になれるし、今日は絵の力に凄く励まされました(相葉さん)」、「こどもたちの無限の可能性を今回感じましたし、自由な発想の作品が多く集まっていたので、こういうこどもたちが日本の未来を担ってくれるのが楽しみです(北川さん)」と、こどもたちの絵からたくさんのパワーをもらい、とても充実した表情で審査会を終えたお二人でした。

## ■受賞作品決定後インタビュー

---

### Q:「ボクの、ワタシの、未来賞」の審査にあたり、感想をお聞かせください。

相葉さん: 本当に僕で良いのかなって思っちゃいますよ。  
実は僕、絵が本当に下手なんです。なので、今日はドキドキしながら選ばせていただきました。  
(北川さんに向かって)どうでした？

北川さん: ドキドキしましたし、どれも甲乙つけがたい素晴らしい作品が集まっていたので、私が選んで良いのかと思いましたけど、(審査員として参加できて)光栄でした。

相葉さん: 選ばせていただいて、凄くメッセージ性が強い絵が多いと思いました。

### Q:本日も覧になった作品を振り返りながら、作品に対する感想をお願いします。

相葉さん: (幼児0才~4才部門で受賞した)新幹線の絵を見ると、スピード感やボーダーのグラデーションの表現が凄いですよね。0才~4才の部門とは思えないです。(僕は)今でも描けないですもん。

北川さん: 今回「ドキドキ！わくわく！」というテーマがあったと思いますけど、すべての作品から躍動感とか明るい未来を思い描いた様子が伝わってきました。

相葉さん: この子たちがこれから大人になっていくということは、世の中が凄く良くなるんじゃないかな、という期待が持てますよね。

### Q:どのようなポイントに留意して審査されましたか？

相葉さん: 直感的なものです。僕は絵の技法も全然知らないですし、だからこそ、見て受け取るものを大切に選びました。

北川さん: (「ドキドキ！わくわく！」というテーマで、)強い未来、明るい未来を思い描きながら描いてくれたんだなというパワーが伝わった作品がたくさんあったので、そういうパワーがより強いものを選びました。

### Q:今年はコンクール全体で約20万点もの応募がありました、そのこどもたちにメッセージをお願いします。

相葉さん: 素敵な素晴らしい絵をたくさん応募していただいて本当にありがとうございます、ということ伝えたいです。それがいろんな人たちに見ただけになったら良いなと思います。絵ってエンタテインメントですよ。見ただけで楽しくなるし、笑顔になれるし、今日は絵の力に凄く励まされました。

北川さん: とてもたくさん「ボクの、ワタシの、未来」が集まったと思います。去年は日本にとっていろいろあった年ですが、そういった状況のなかでこんなに前向きなこどもたちが多くて、強い未来を思い描いたメッセージが伝わってくるとは思わなかった、私が逆にパワーをもらって勇気づけられました。本当にありがとうございました。

### Q:こどもが描く未来の絵をご覧になったわけですが、お二人が描く2012年の未来はどのようなものですか？

相葉さん: そうですね。僕は絵を描こうかなと思います。今回もコンクールに応募したんですけど、年齢の制限があるみたいなので…。(北川さんに向かって)どうですか？これからの未来は。

北川さん: 今回こどもたちの無限の可能性を感じましたし、自由な発想の作品が多く集まっていたので、こういうこどもたちが日本の未来を担ってくれるのが楽しみです。私も何か自分のためだけではなく、日本のためになることを、エンターテイナーとして取り組んでいけたらと思います。

相葉さん: 今回、「こども絵画コンクール」に携わることができて、僕もいっぱい力をもらいました。僕にできることは些細なことかもしれませんが、一つひとつ丁寧に向き合っていきたいと思います。  
あとは絵を描きます。かならず。